

# 新 風

1997  
久留米工業大学同窓会会誌  
第4号



創立30周年記念ブロンズ像「明日へ」

久留米工業大学同窓会

〒830 久留米市上津町2228 久留米工業大学内  
電話 0942(22)2345

---

## 1. 創立30周年を想う

同窓会会長 近藤 満幸

残暑厳しい折、皆様元気に御活躍のことと思います。昨年開催致しました創立30周年大同窓会総会には遠方から泊まり込みで駆け付けた卒業生等、200余名の会員の出席と、長谷川学長をはじめ多数の先生の御来席を賜り盛大に行われました。また創立30周年記念の寄付をお願い致しましたところ、210名の皆様より御協力頂きました。皆様方の暖かい御支援に心より感謝致します。有難うございました。総会準備にご尽力頂きました役員の皆様にも御礼申し上げます。

創立当時を少し思い浮かべますと、私の通学路でありました国道3号線沿いには、随分と畑や水田があり、春には田植えされた緑が、秋には黄金に輝く稲穂を見ることが出来ました。また学校周辺でも植木や果樹園等が校舎より一望され、自然を満喫出来ました。学内では教材、資料等の不足の為、講義内容、実習時間の変更等がしばしばありました。しかし先生方も若く、情熱的な指導で勉学のみならず人生相談等、気軽に出来、楽しい学生生活でした。

さて、御案内の通り同窓会では、今年、役員の変更が行われました。新役員一同、当会の活動の活発化とより充実した会の運営を目指したいと思っております。さらに将来構想の実現並びに大学の発展にも寄与出来ますよう努力致します。今後とも皆様の御指導・御鞭撻の程よろしくお願い致します。

21世紀も間近となり、母校並びに皆様の益々の御発展と御健勝を御祈り申し上げます。

## 2. 同窓会総会と懇親会の報告

前同窓会常任幹事 井川 秀信

### ～母校の創立30周年を祝う～

同窓会総会が、平成8年11月3日(日)午前11時から、梅光苑(久留米市長門石)において、約200名の出席のもと、盛大に開催されました。今回は母校の創立30周年という記念すべき節目の年でもあり、学長をはじめ大学関係者ならびに退職された多数の先生方にもご出席いただきました。

総会では幹事の古賀秀信氏の開会宣言に始まり、近藤満幸会長から挨拶がありました。続いて来賓を代表して長谷川修学長より祝辞がありました。

次に議事に入り、平成7年度決算および平成8年予算案について会計の林佳彦氏から報告があり、意義なく承認されました。続いて本学同窓会で実施した母校への創立30周年記念事業について報告が行われました。また今後の活動方針として会員名簿の発刊、支部結成の呼び掛けと活動の活発化が承認されております。最後に本学の学園歌を斉唱後、総会を閉会いたしました。

総会終了後、同会場にて懇親会が行われました。高田勝前学長のご発声で乾杯が行われ、その後多くの卒業生と現職ならびに退職された先生方を囲んで楽しい歓談の一時を過ごすことができました。特に祝宴では卒業生のご家族の参加や遠方から駆け付けた卒業生との十数年ぶ



りの再会など、終始和やかな雰囲気の中で会が進んでまいりました。最後に黒瀬幸正局長の音頭で万歳三唱が行われ、懇親会を終了いたしました。

このように本会の総会ならびに懇親会が盛大のうちに終わりましたことをご報告いたします。

### 3. 佐藤 博名誉学長のご逝去

4月14日に本学の初代学長で名誉学長である佐藤博先生がお亡くなりになりました。謹んで哀悼の意を表します。享年95歳でした。

先生は入学式や卒業式の祝辞で「朝、人に会ったら大きな声で挨拶をください。これはお金がかからない大きな投資です。」と必ず口にされていたことを思い出します。先生は昭和41年久留米工業学園短期大学を創設され、昭和51年には4年制の久留米工業大学を実現されました。昭和57年に退職されるまで17年の長きに渡って学長職を勤められました。

なお葬儀には本会から会長ほか1名が出席し、献花を捧げております。ごめい福をお祈りします。

### 4. 母校創立30周年記念事業決算報告

会計 林 佳彦

本会が行いました母校創立30周年記念事業報告を下記に掲載しております。特に収入の部では210名の会員の皆さまより寄付金をいただきました。心よりお礼申し上げます。

(下記の事項につきましてはすでに平成8年度同窓会総会にて承認されております。)

#### (1) 収入の部

科目	決算(円)	備考
寄付金	1,382,500	寄付者210名
同窓会出資金	3,017,500	同窓会より支出
収入合計	4,400,000	

#### (2) 支出の部

科目	決算(円)	備考
寄贈品費	2,024,161	大学への寄付金,テント,垂れ幕の寄贈
記念誌購入費	600,000	寄付者への記念品として配布(240冊)
総会案内の掲載料	221,115	西日本,朝日新聞への総会案内の広告
総会および懇親会経費	1,469,812	総会・懇談会の開催諸経費
残金	84,912	同窓会費へ繰り入れ
収入合計	4,400,000	

(3) 創立30周年記念募金拠出者

(募金者の敬称は略させていただきます)

氏名	学科	卒年	氏名	学科	卒年	氏名	学科	卒年	氏名	学科	卒年
近藤 幸	短自	S43	福田 哲郎	大機	S62	大豆生 田光男	大建	S54	横田 貴光	大電	H05
平岡 稔	短自	S43	村井 潔	大機	S62	田中 利治	大建	S54	鶴川 和彦	大電	H06
平川 富幸	短自	S43	井上 隆二	大機	H01	田添 稚麻	大建	S56	柴田 省吾	大電	H06
藤木 禮作	短自	S43	淡路 勝幸	大機	H02	平石 裕	大建	S56	西江 孝之	大電	H06
安斉 信二	短自	S44	磯貝 義徳	大機	H02	多田 治	大建	S59	藤原 英陽	大電	H06
戸上 實	短自	S44	大城 慶	大機	H02	呉屋 吉信	大建	S60	水口 浩司	大電	H06
新井 成光	短自	S45	玄覚 幸宏	大機	H02	喜山 明伸	大建	S60	門出 幸生	大電	H06
岩永 典克	短自	S45	高木 敬二	大機	H02	喜舎場 勲	大建	S61	金宮 盛起	大別	S56
隠塚 信敏	短自	S45	中牟田 淳	大機	H02	信太 慶子	大建	S61	平原 日出夫	大別	S56
津田 純一郎	短自	S45	前元 栄治	大機	H03	石橋 辰彦	大建	S62	苺北 哲弘	大別	S60
東 信人	短自	S45	植屋 典史	大機	H04	河野 明	大建	S63	五嶋 英樹	大別	S63
梅野 清嗣	短自	S46	日隈 栄治	大機	H04	小丸 孝弘	大建	S63	富永 昭広	大別	S63
平橋 誠一	短自	S46	平原 靖弘	大機	H04	佐野 正治	大建	H01	吉永 靖昭	大別	S63
平地 百二	短自	S46	松永 学	大機	H04	大川 健司	大建	H02	伊勢田 龍昌	大別	H01
福田 孝司	短自	S46	武知 修	大機	H05	大橋 剛	大建	H02	壇 康広	大別	H01
前田 悦郎	短自	S46	深松 健	大機	H05	永田 智隆	大建	H02	玉城 道健	大別	H02
宮崎 一臣	短自	S46	古川 聡	大機	H05	吉田 和直	大建	H02	橋口 泰明	大別	H02
川原 国男	短自	S47	下江 伸幸	大機	H06	石田 和督	大建	H03	苺北 史弘	大別	H04
郡 良実	短自	S47	鈴木 比呂道	大機	H06	佐久川 泰尚	大建	H03	中牟田 賢二	大別	H04
乗富 勘治	短自	S47	高尾 卓司	大機	H06	平良 直樹	大建	H03	赤崎 芳弘	大別	H05
宮本 啓陽	短自	S47	中島 秀明	大機	H06	小塚 富裕	大建	H04	赤崎 学聡	大別	H05
梅田 親史	短自	S48	藤野 圭輔	大機	H06	菅原 誠	大建	H04	狹間 幸男	大別	H05
大石 善保	短自	S48	松本 仁志	大交	S55	菅原 崇	大建	H04	花田 博	大別	H05
古梶 好一	短自	S48	小林 清文	大交	S56	世良 洋介	大建	H04	浦川 健一郎	大別	H06
白水 福雄	短自	S48	河村 達也	大交	S57	原 英昭	大建	H04	佐藤 壽洋	大別	H06
吉田 孝司	短自	S48	千代島 龍一	大交	S58	石島 治	大建	H05	田代 昭也	大別	H06
入江 義徳	短自	S49	甲斐 正憲	大交	S59	内田 英文	大建	H05	塚本 寧	大別	H06
河本 孝充	短自	S49	石川 清	大交	S60	西小 利周	大建	H05	野田 健司	大別	H06
佐々木 哲也	短自	S49	林 博樹	大交	S61	高谷 成輝	大建	H05	前大 光明	大別	H06
沢山 正信	短自	S49	森 浩二郎	大交	S61	平林 利一	大建	H05	盛外 盛人	大別	H06
縄田 良次	短自	S50	安田 仁徳	大交	S61	秋山 征吾	大建	H06			
藤中 尋臣	短自	S50	荒巻 昭義	大交	S62	一色 英二	大建	H06			
松尾 義久	短自	S50	津嘉山 正	大交	S62	上原 宏明	大建	H06			
福山 成敏	短自	S51	鹿野 比登志	大交	S63	小倉 聡	大建	H06			
馬場 利成	短自	S52	山口 敏晴	大交	S63	木村 琢	大建	H06			
山本 時次郎	短自	S52	濱崎 勝之	大交	H01	京條 康昌	大建	H06			
奥 勝政	短設	S50	林田 俊也	大交	H01	関谷 義浩	大建	H06			
久保田 勝志	短設	S51	古川 光斉	大交	H01	世良 英介	大建	H06			
井川 秀信	大機	S55	村上 真司	大交	H01	野島 真由美	大建	H06			
久保田 明男	大機	S55	岩隈 正治	大交	H02	畑尾 直也	大建	H06			
平田 光治	大機	S55	竹村 潤	大交	H02	松下 隆志	大電	H01			
花田 久男	大機	S56	美濃 健二	大交	H02	坂下 法大	大電	H02			
林 佳彦	大機	S56	東城 聖志	大交	H03	城戸 智弘	大電	H02			
松本 真	大機	S57	石川 進	大交	H04	新本 正博	大電	H03			
村川 照明	大機	S57	栗林 守	大交	H04	小倉 祐次	大電	H03			
青谷 龍男	大機	S58	對梨 晴之	大交	H04	菅田 裕	大電	H03			
米須 清二	大機	S58	吉田 拓史	大交	H04	長山 茂	大電	H03			
田上 貴朗	大機	S58	今泉 大	大交	H05	吉里 彰	大電	H03			
竹村 真一	大機	S58	小野 成栄	大交	H05	吉野 彰	大電	H03			
中村 一也	大機	S58	渤海 知也	大交	H05	足谷 英紀	大電	H04			
都 道雄	大機	S59	松田 政洋	大交	H05	中石 和宏	大電	H04			
長井 幸司	大機	S60	森 典彦	大交	H05	石川 穰	大電	H05			
森 浩一	大機	S60	植木 茂	大交	H06	井上 和久	大電	H05			
小川 日出光	大機	S61	上村 浩司	大交	H06	河村 泰治	大電	H05			
古賀 裕二	大機	S61	杉原 玉樹	大交	H06	久保 泰則	大電	H05			
竹中 一宏	大機	S61	田代 幸紀	大交	H06	佐藤 克仁	大電	H05			
原田 憲司	大機	S61	谷村 康	大交	H06	下坂 光浩	大電	H05			
緒方 光太郎	大機	S62	波多江 伸之	大交	H06	中島 正起	大電	H05			
平川 武志	大機	S62	播磨 佳史	大交	H06	西村 臣巧	大電	H05			
			藤井 伸吾	大交	H06	日高 隆紀	大電	H05			

学科略称は下記の通りです。  
 短自・・・短期大学自動車工業科  
 短建・・・短大設備工業科  
 大機・・・大学機械工学科  
 大交・・・大学交通機械工学科  
 大建・・・大学建築設備工学科  
 大電・・・大学電子情報工学科  
 大別・・・大学別科

## 5. 会計決算と予算報告

## 平成 8 年度決算書

(平成 8 年 4 月 1 日～平成 9 年 3 月 31 日)

科 目	収 入 (円)	科 目	支 出 (円)
終身会費	3,916,180	学生活動補助費	250,000
雑収入	208,430	運営費	821,421
繰越金	18,189,446	事務費	123,897
		パソコン関連維持費	523,948
		会員名簿調査費	287,550
		会報誌発刊経費および送料	1,356,827
		30周年記念特別経費	3,017,500
		次年度繰越金	15,932,913
収入合計	22,314,056	支出合計	22,314,056

## 繰越金内訳

内 訳	金額 (円)
現金	39,094
郵便普通預金	955,531
銀行普通預金	20,908
郵便定期預金	11,895,000
銀行定期預金	2,531,010
郵便貯金センター	491,370
合 計	15,932,913

## 平成 9 年度予算報告書

(平成 9 年 4 月 1 日～平成 10 年 3 月 31 日)

科 目	収 入 (円)	科 目	支 出 (円)
終身会費	12,584,000	学生活動補助費支出	500,000
雑収入	10,000	運営費	1,010,000
繰越金	15,932,913	事務費	350,000
		パソコン関連維持費	450,000
		終身会費納入依頼経費	81,000
		会報誌発刊経費	1,500,000
		会員名簿作成準備費	500,000
		予備費	500,000
		次年度繰越金	23,635,913
収入合計	28,526,913	支出合計	28,526,913

## 特集

## 久留米工業大学の歩み (第一部 短期大学開学から4年制大学設立まで)

### 短期大学設立の経緯

学校法人久留米工業大学の母体であった学校法人久留米工業学園は、日本が第2次大戦の敗戦後の混乱からようやく立ち直り、国を挙げて経済発展を目指していた昭和33年に、自動車工学を基調とする専門技術者の育成を目標とした学校法人として設立された。それ以来、昭和34年に久留米高等整備学校および自動車学校、昭和35年に久留米建設機械専門学校、昭和37年に久留米工業高等学校(現在の附属高等学校)を開設して、教育界は勿論のこと産業界、交通運輸業界などに貢献してきた。

昭和39年2月の理事会において、学園の最高学府であり研究機関でもある、短期大学の設置に関する議案が提案されて、それまでの予備的な調査研究結果が報告された。続いて同年3月の理事会で昭和39年度の新規事業として久留米工業学園短期大学を設置することが決まり、短期大学設置の計画が進められた。しかし、予定していた短期大学用地の問題が解決せず、新たに現在地に短期大学を設置することとし、昭和40年度の事業として学園を挙げて取り組み、昭和40年9月に当時の中村梅吉文部大臣に久留米工業学園短期大学設置認可申請書を提出した。

設置の目的として「本学は教育基本法および学校教育法に則り、高等学校教育の基礎の上にさらに高度な学問的にしてかつ実際的な工業教育を施し、専門の学理と技術を研究するとともに応用力を養い、産業近代化に即応する学力と識見とを兼ね備えた技術者を育成することを目的とし、併せて一般教育を拡充して成人教育の充実を図り、健全な人格を有する有為なる良き社会人を育成することを使命とする。」と記している。

### 久留米工業学園短期大学の開学

昭和40年9月の短期大学設置認可申請書の申請を受けて、同年11月に文部省私大審議会および大学設置審議会の現地調査が行われ、昭和41年1月25日に文部省より久留米工業学園短期大学(自動車工業科;定員100名,自動車工業科二部;定員100名)の設置が認可された。同年4月15日に久留米工業学園短期大学の第一回入学式が挙行された。

### 短期大学の入学定員増

昭和30年代に入り我国の自動車産業は著しい成長発展が見られ、昭和40年7月には名神高速道路が全線開通して、いよいよ日本も高速自動車交通の時代に入った。一方、自動車整備業界では、昭和39年4月に中小企業近代化促進法の指定業種に加えられて企業の近代化をせまられ、実行力のある産業人が多数求められた。このため久留米工業学園としても短期大学の目的、使命を達成するため、現行学科の学生定員の増加を行うか、自動車販売会社等が求めている自動車に関する基礎知識と経営工学を主とした他学科を増設するかについて慎重に検討がなされた結果、昭和43年5月の理事会で現行学科の定員増加を行うことを決めた。なお、短期大学では

経営学科関係の授業を選択科目として開講し、営業関係へ進む者への配慮をした。

同年9月に、昭和44年4月より短期大学の入学定員を増加するための学生定員変更届出書を当時の灘尾弘吉文部大臣に提出し、認可された。そして入学定員は、自動車工業科（定員300名）、自動車工業科二部（定員200名）となった。

### 設備工業科の新設

昭和40年代に入ると、より良い生活環境を求める要求が高まり、職場や家庭における冷房設備、各種の電気、ガス設備および衛生設備等がめざましく普及した。今後は生活環境の設計改善、公害対策、環境整備機器等に詳しい専門技術者の必要性が増加することが予想された。しかしながら、その当時（昭和47年）これらの技術者を養成する教育機関は高等学校では全国で十数校、大学では僅か数校に過ぎず、短期大学では全く無かった。この様な事から社会の要請に応え、短期大学内に委員会を設けて、全国の短期大学の先駆をきって本学に設備工業科を設置するための計画が進められた。しかし、これは先の自動車工業科の設置認可申請の場合と違って大きな困難があった。それは全国の短期大学に設備工業科と称する学科が無いため、これを短期大学の学科として成立することを文部省に認めてもらうことであった。そのため、委員会ではまず初めに文部省に短期大学の設備工業科の教育内容、予想される卒業生の進路等についての説明資料を提出した。これが認められたので、久留米工業学園短期大学設備工業科設置認可申請書を昭和47年9月に当時の稲葉修文部大臣に提出し、翌年1月27日設備工業科の設置が認可された。同年3月には、短期大学本館（現在の3号館）が完成し、設備工業科の実験設備も整った。

### 久留米工業学園短期大学から久留米工業大学へ

久留米工業学園は昭和41年4月の短期大学設置時より将来は4年制工業大学を設置することを目標としてきた。開学以来、短期大学は自動車工業科、同第二部の入学定員増加、専攻科の設置と組織を拡大し、昭和48年には全国の短期大学で初めて設備工業科を設置して、教員組織、施設設備共に充実してきた。

しかしながら、昭和47年をピークに短期大学の受験者数が全国的に減少傾向にあり、一方4年制大学の受験者数は増加傾向にあった。この様な事から、昭和49年度になって、学内に短期大学の将来を検討する委員会（後の大学設置委員会）が設けられた。その結果、現在の短期大学を廃止して工科系の4年制大学（仮称；久留米工業大学）を設立し、短期大学の教職員、施設設備をそのまま新しい4年制大学に移す案をまとめた。この案は理事会、続いて評議委員会で承認され、学園を挙げて久留米工業大学設立のための活動が本格化した。

そして、昭和50年8月28日の久留米工業大学設置認可申請に対し、文部省の審査、審議を経て昭和51年1月10日、久留米工業大学の設置が認可された。これに伴い、昭和50年度で短期大学の学生募集を停止し、昭和54年全の学生が卒業した後、同年6月文部省に久留米工業学園短期大学の廃止届けを提出してその役目を終わった。

（久留米工業大学30周年記念誌より）

## 6. 新役員

顧問	長谷川 修 (学長)	有田 一寿 (理事長)	黒瀬 正幸 (局長)
	堀 文昭 (学生部長)		
会長	近藤 満幸 (短自 S43)		
副会長	古賀 秀信 (大交 S54)	丸太 祐之 (大交 S55)	
常任幹事	小島 剛 (短自 S46)	林 佳彦 (大機 S56)	
幹事	藤木 禮作 (短自 S43)	陣内 久始 (短自 S43)	中原 賢勝 (大建 S54)
	宮崎 嘉久 (大交 S54)	中島 隆 (大建 S54)	山木 秀行 (大建 S55)
	竹村 真一 (大機 S58)	原田 憲二 (大機 S61)	牛島 晃司 (大機 S61)
	小野 弘之 (大建 H1)	小路口心二 (大電 H1)	瀬戸口英樹 (大電 H9)
会計	林 佳彦 (兼務)	正岡 秀仁 (大交 S63)	
監査	中尾 幸平 (大機 S56)	高西 賢二 (大交 S58)	
書記	高西 賢二 (兼務)		

## 7. 教職員人事移動

(新任者)

教授 井出 靖雄 外国人教師 アンダーウッド・ウィリアム

(退職者)

助教授 徳永紀美子 外国人教師 ピーター・ホーストマン  
助手 趙 燕結 警備員 青木 茂

(平成8年4月1日～平成9年3月31日)

## 8. 連絡

今年11月より同窓会会員名簿(平成10年度版)の発刊準備が開始されます。今回は小野高速印刷株式会社による委託調査が行われます。ご協力をお願いします。調査項目や内容について不明な点がありましたら本会の事務局までご連絡下さい。

問合せ先: 〒830 久留米市上津町2228

久留米工業大学同窓会事務局(担当; 林 佳彦)

電話 (0942) 22-2345

## 編集後記

皆様のおかげをもちまして本会誌名「新風」の第4号を発刊することができました。昨年は同窓会総会ならびに懇親会が行われ、久しぶりに先輩、後輩、級友らと再会することができました。多くの卒業生が社会でめざましい活躍をしている様子を直に聞くことができ嬉しく思うとともに自らの励みにもなりました。本会が益々発展するようお祈りするとともに今後ともに皆さま方のご協力をお願いします。

(編集者 井川 秀信)